現代における社会的事象を題材とした歴史的思考力の育成
～歴史的事象の構造化の手法を通して～

福島県立清陵情報高等学校　教諭　佐久間　宏孝

１　研究の趣旨

私の経験してきた歴史科目の授業手法は、講義形式が主であり、知識の詰め込みに重点が置かれてきた。その結果、生徒には歴史科目は現代とは繋がりのない、また生徒自身とは関係のないできごとであるという主観を生んでしまっている。

この傾向は、いわゆる「歴史嫌い」の生徒をつくり出すことになり、また暗記に飽きた生徒、それが得意ではない生徒が歴史科目に真摯に取り組もうという意欲を奪ってしまい、授業に彼らが能動的に取り組まない結果を生んでしまっている。教師としてこうした歴史の授業の在り方を改善し、現代の社会的事象を単元の題材として、「歴史的思考力」「多面的・多角的視点」をキーワードに従来の手法とは異なる形の歴史の授業の在り方を研究した。

現代における社会的事象を題材とし、歴史的事象の構造化を図る取り組みを行えば、歴史的思考力を育むことができるであろう。

２　研究の概要

(1)　生徒に資料を自ら読解させ、必要な情報を選択・把握させる。

①　生徒が課題に取り組む際に、多様で客観的な情報に触れられるように、資料を準備する。また、資料を生徒が自主的に選択できるようにあらかじめ冊子として配布する。

(2)　ワークシートの小課題（便宜上、ワークシートで先に生徒が取り組むものを下位課題、その後に取り組むものを上位課題と呼称する）については、単元課題の解決に生徒を段階的に導けるよう配慮する。

①　下位課題は資料の情報を適切に把握すれば記述できる内容とし、上位課題はその下位課題の記述内容を勘案、活用といった思考過程を経なければ記述できないようにする。

②　下位課題は要因・背景とし、上位課題がその結果・結論となるような関係性を持たせ、それによって生徒が事象間の因果関係に気づき、思考の構造化に寄与するよう配慮する。

(3)　ステップチャートを参考としたワークシートを授業では利用し、矢印で事象や課題を繋ぐことで単元課題について多角的・多面的な繋がりが存在することを図示して生徒に示す。その中で上記の構造化についても可視化し、単元課題を単元の中で最終的に取り組むべき上位課題であることを意識させて様々な視点から生徒に思考させる。

３　成果と今後の課題

(1)　ワークシートの記述内容の評価から

①　実践後に、ワークシートの記述内容をＡ～Ｄの４段階の基準を設け評価したところ、多面的・多角的に単元課題を考察し、思考の構造化を行って適切な考えを形成できた生徒が、前期実践では 57.1％であった。これが思考の方法や授業の手法に慣れた後期実践では、68％に達した。この結果から、生徒の相当数が歴史的事象を流れを追って把握し、それによって現代の社会的事象と繋げて思考できる力、いわゆる歴史的思考力を育成できたと考える。また、生徒へのアンケートでは、「世界史がふだんの生活で役に立つか否か」という質問に対する肯定的回答が実践後には 70％に達し、授業実践者として嬉しい結果であった。

②　近現代史以前の歴史の学習に、このワークシートを用いた手法が援用できないかどうかは、平成 28 年度に検証してみたいと考えている。実験的に実施した際に用いた資料を添付した。